

体育科学習指導案

指導者 大阪市立高殿南小学校 高本 敦子

1. 日 時 令和7年 5月14日(水) 第5時限(13:50~14:35)

2. 学年・組 第1学年1組 在籍20名

3. 場 所 運動場

4. 単 元 器械・器具を使つての運動遊び「鉄棒を使った運動遊び」

5. 目 標

- ・ 鉄棒を使った運動遊びの行い方を知り、鉄棒を使って手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶことができるようにする。

【知識及び技能】

- ・ 鉄棒を使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えたりすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・ 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

6. 指導に当たって

(1) 児童観

本学級の児童は、休み時間になると、全員が運動場に駆け出し、活発に外遊びを楽しんでいる。現在の遊びの中心は固定施設の遊具や鬼ごっこである。入学して一月ほどの児童は、友達と相談して遊びを決めることもあれば、自分の遊びたいことで遊ぶ様子もある。向かった先の遊具で偶然一緒になった友達と楽しく遊んでいる様子も見受けられる。体育科の固定施設を使った運動遊びでは、ジャングルジム・雲梯・登り棒・肋木を使った運動遊びを経験している。これから、鉄棒を使った運動遊びを学習するに当たって、児童の体育科の学習や鉄棒遊びに対する意識調査を行った。結果は以下の通りである。

① たいいくかのかくしゅうは好きですか。									
はい	20	あんまり	0						
② てつぼうあそびは好きですか。									
はい	17	あんまり	3						
③ ともだちと、うんどうあそびをするのは好きですか。									
はい	20	あんまり	0						
④ ともだちのあそびかたをみたり、やりかたをはなしたりすることはべんきょうになるとおもいますか。									
はい	20	あんまり	0						
⑤ てつぼうあそびはたのしみですか。									
はい	17	あんまり	3						

(数字は人)

体育科を「好き」と肯定的に捉える児童は20人中19人(95%)であったが、鉄棒遊びとなると17人(85%)に減ることが分かった。また、友達と運動することを「好き」と肯定的に捉える児童は20人(100%)で、友達の遊び方を見たり、やり方を話したりすることが勉強になると捉える児童も、同様であった。鉄棒遊びを楽しみと肯定的に捉える児童は17人(85%)で、鉄棒遊びを「好き」と捉える児童と一致した。また、表の⑤に対しての理由には、次のようなものがあった。

肯定的な捉え方をする児童の理由	否定的な捉え方をする児童の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しいから。 ・好きだから。 ・いろいろな遊びができるから。 ・できないけれど、できるようにになりたいから。 ・(みんなに)わざを見せたいから。(多数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで鉄棒であんまり遊んでいないから。 ・できる技が少ないから。 ・保育園の鉄棒よりも高い鉄棒があって、届かないから。

これらの実態から、鉄棒には、様々な遊び方があることを児童が知り、より鉄棒遊びに親しめる場が大切であると考えられる。これまでの練習で身に付けた遊び方をみんなに見せたい、という児童の思いを生かせば、児童の主体性を伸ばし、活躍の場を広げられる。また、鉄棒遊びを苦手とする児童においては、それぞれの適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方を進め、友達と共に楽しめる活動を取り入れれば、「友達と一緒に楽しい」と感じられる場をつくり出せる。そして、できるようにになりたいという児童の思いに応えるためには、遊び方に工夫を加え、楽しさと技能の高まりをつなぐ学習活動が必要になると思われる。

(2) 教材観(運動の特性)

鉄棒はかつて、学校で人気のある遊具であった。毎日練習をし、身に付けた技を披露し、友達同士でやり方を教え合っていた。手にマメができて痛くてもやりたい技があった。その技は友達から友達へと互いの技術の共有で受け継がれ、関係を深めながら楽しむことができる「伝承遊び」であった。鉄棒は常設されているという大きな利点がある。休み時間にも自由に練習できる。鉄棒ブームが来れば、鉄棒を好きになり、自分で練習をしていく。友達と一緒に練習すれば、互いにがんばりを認め合い、共にできる喜びを分かち合い、関係を深めることができる。

教材としての鉄棒を使った運動遊びは、鉄棒を使って支持・ぶら下がり・振動・回転など様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに楽しさや喜びに触れることのできる運動遊びである。児童が多様な動き方や遊び方を考えることができるように図で掲示したり、集団で取り組める遊びを工夫したりすることが必要である。器械運動と関連の深い動きを、意図的に取り入れることにより、基礎となる体の動かし方や感覚を身に付けることが大切である。

(3) 指導観(学習指導と評価の在り方)

入学して一月あまりの時期であることと、本学級の児童の実態から、本単元の学習を、運動の楽しさに触れたり、友達との関わりを増やしたりする機会の一つとも捉え、指導に当たる。

第1時「はじめ」では、学習の内容を知らせ、単元全体の見通しをもてるようにする。鉄棒の使い方や運動遊びの行い方を知った上で、鉄棒を使ったいろいろな運動遊びをする。遊び方を児童に問い、児童が実演をして、遊びを紹介し合うようにする。本単元の身に付けさせたい動きとしての手や腹、膝での支持、ぶら下がり、揺れる、跳び上がり・跳び下り、易しい回転を引き出すようにする。「する」児童、「みる」児童、やり方を「知る」児童とそれぞれの活動を通して、関わりをもてるようにする。そうして、次の学習時間を楽しみにするとともに、自分がやってみたい遊びを選べるようにする。

第2時「なか」では、活動を2段階に分けて運動に取り組む。はじめに自分がやってみたい遊びにそれぞれが取り組む場とする。次に、それらの基本の遊びに工夫を加えた例を紹介して、新しい遊び方をしてみたり、さらに工夫を考えたりして、動きとともに思考も深まるようにする。ここでは、友達と一緒に遊べる場を設け、それぞれができる動きを基に遊べるようにして、楽しいから長く続けたり、楽しいから何

度も挑戦したりすることができるようにする。同じ園出身の友達と遊ぶ児童、同じ遊び方をする友達と交わる児童と様々な様子が予想される。一緒に遊ぶ友達を見付けられなかった児童には、指導者が働きかけをして輪をつないでいく。学級の友達と出会って間もないことから、まずは、個々の活動、そして指導者を含めた全体活動を中心として学習を展開していく。体育科のこうした運動遊びの経験を積み重ねたり、教室内での学習時間を費やしたりして、友達との関わりを広げ、今後のペア活動やグループ活動に発展させる土台としたい。

また、第2時より学習カードを使用する。前時に、児童が紹介した鉄棒遊びを基にして作ったように演出して、児童の主体性を促進できるようにする。現在、ひらがなの学習中であることから、絵図で遊び方を示し、遊んだものに色を塗ったり、簡単な振り返りがマークで表せるようにしたりしたものを用意しておく。そして、指導者が、児童一人一人に対する理解や、支援・指導に役立てるようにする。毎時間のめあてや振り返りは、指導者による口頭での説明や児童の発表を中心にし、鉄棒遊びに関する動きの言語化を指導者が主に担い、活動を通して児童の思いや考えを耕し、言語化を促すようにする。

第3時「まとめ」では、今まで遊んできた遊び方から、遊びたいものを選んで運動遊びをするようにする。互いに「みる」時間も設け、友達のよい動きや見た上で考えた遊び方を言葉や動きで表現できるようにする。さらに今後、休み時間なども使って遊びたいものを引き出し、継続して鉄棒遊びに取り組む意欲を高められるようにする。運動遊びを通して体力や友達との関わりを育み、心身ともにたくましく、協働した活動ができる態度を養っていききたい。

評価については、毎時間、観点を絞って児童の様子を把握していく。児童の活動の様子を観察して、児童の学習カードも見取り、必要に応じて指導計画の調整や個別指導・支援を行った上で評価するようにする。

<体験させたい遊び方及び工夫> *それぞれを2人で・3人で…とシンクロ、リレーなどして遊ぶこともある。

手や腹、膝で支持	ぶら下がり→揺れる	跳び上がり・跳び下り	易しい回転
つばめ	猿→移動・小さく・揺れる →じゃんけん	跳び上がり	前回り→連続
横渡り	豚の丸焼き→移動 →じゃんけん	跳び上がり→自転車こぎ	足抜き後ろ回り→連続
ダンゴ虫→持久比べ	(ダンゴ虫) 片膝かけ→揺れる	跳び下り→前振り跳び下り →後ろ振り跳び下り	足抜き前回り→連続
つばめ→じゃんけん	洗濯物→揺れる →じゃんけん	シンクロ跳び上がり・ 跳び下り	地球回り
	布団干し→揺れる →じゃんけん		【発展】登る・回る・下りるの連続
	こうもり→揺れる →じゃんけん		
	【発展】指や足で紅白玉運び 指で地面にお絵かき		

(4) 器械・器具を使っの運動遊びの観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定施設を使った運動遊びでは、登り下り、懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする事ができる。 ・マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすることができる。 ・鉄棒を使った運動遊びでは、支持としての揺れや上がり下り、ぶら下がりがりや易しい回転をすることができる。 ・跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事ができる。 	<p>○器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定施設を使った運動遊びやマットを使った運動遊び、鉄棒を使った運動遊び、跳び箱を使った運動遊びの簡単な遊び方を選んでいる。 ・友達のよい動きを見つけたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 	<p>○運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り、誰とも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。</p>

(5) 鉄棒を使った運動遊びの観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒を使った運動遊びの行い方を知るとともに、鉄棒を使って、手や腹、膝で支持したり、ぶら下がったり、揺れたり、跳び上がったり、跳び下りたり、易しい回転をしたりするなどして遊ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくできる遊びを選んでいる。 ・友達のよい動きを見つけたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒を使った運動遊びに、進んで取り組んでいる。 ・順番やきまりを守り、誰とも仲よく運動している。 ・鉄棒の安全に気を付けている。

7. 学習指導・評価計画 | 年「鉄棒を使った運動遊び」 全3時間

過程	はじめ	なか	まとも
時	①	2	3
学習のねらいと活動	<p>学習の内容や進め方を知り、単元全体の見直しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 学習のねらいや進め方を知る。(2分) <ul style="list-style-type: none"> 単元全体の進め方 ・本時のめあて 準備運動、固定施設遊びをする。(10分) 鉄棒の使い方や運動遊びの行い方を知る。(5分) <ul style="list-style-type: none"> 握り方(順手・逆手) ・安全 ・順番 ・きまり 鉄棒を使っていろいろな運動遊びをする。(23分) <ul style="list-style-type: none"> 跳び上がる ・跳び下りる ・ぶら下がる ・揺れる 支持する(手や腹、膝) ・易しい回転をする 学習の振り返りをする。(3分) 整理運動をする。(2分) 	<p>自分のしたい遊び方や、友達との遊び方を工夫しながら運動遊びに楽しく取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 本時の学習の流れやめあてを確認する。 準備運動、固定施設遊びをする。 鉄棒を使っていろいろな運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> 跳び上がる ・跳び下りる ・ぶら下がる ・揺れる ・支持する(手や腹、膝) 易しい回転をする 遊び方を工夫して運動遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> 遊び方の工夫を紹介し合う。(片手、移動、競争、じゃんけん、連続、シクロ・リレー) 学習の振り返りをする。 整理運動をする。 	<p>遊び方を選んで楽しく運動遊びをし、単元全体の成果を話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 本時の流れやめあてを確認する。 準備運動、固定施設遊びをする。 遊び方を選んで運動遊びをしたり、さらに工夫を加えた運動遊びをしたりする。 <ul style="list-style-type: none"> 前時までの基本の遊び、工夫した遊び 組み合わせ ・紅白玉移動 ・指でお絵かき 学習の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと ・考えた遊び ・友達のよい動き 整理運動、片付けをする。
指導者の働きかけ	<p>○単元のねらいを理解できるようにし、1単位時間の学習の進め方や単元全体の見直しをもつことができるようにする。</p> <p>○運動の仕方や技をつかみ、学習意欲を喚起できるようにする。</p> <p>○児童の気付きを促しながら、場に応じて助言できるようにする。</p> <p>○よい動きをした児童を称賛し、全体の場で紹介し、遊び方を広める。</p>	<p>○自分の力に合った遊び方をしているかを確認し、個に応じて助言する。</p> <p>○個々の実態に応じて直接補助をする。</p> <p>○児童の気付きを促しながら、場に応じて助言できるようにする。</p> <p>○友達との遊びでは、指導者がつなぎ役をする。</p> <p>○よい動きをした児童を称賛し、全体の場で紹介し、遊び方を広める。</p> <p>○学習カード等の使い方を理解し、遊び方を確認できるようにするとともに、してみたい遊び方を選ぶことができるようにする。</p>	<p>○自分の力に合った遊び方をしているかを確認し、個に応じて助言する。</p> <p>○個々の実態に応じて直接補助をする。</p> <p>○児童の気付きを促しながら、場に応じて助言できるようにする。</p> <p>○友達との遊びでは、指導者がつなぎ役をする。</p> <p>○よい動きをした児童を称賛し、全体の場で紹介し、遊び方を広める。</p> <p>○単元全体を通しての学習のまとめがめができるようにする。</p>
知識技能	鉄棒を使った運動遊びの行い方を知っている。【観察】	自分のやりたい遊び方の行い方を知り、工夫して遊ぶことができる。【観察】 自分の力に適した支持、ぶら下がり、揺れ、跳び上がり、跳び下り、易しい回転の遊びを行うことができる。【観察】	鉄棒を使った運動遊びを工夫して行ったり、友達と遊んだりすることができる。【観察】
主体的に学習に取り組む態度	鉄棒の安全に気を付けている。【観察】 鉄棒を使った運動遊びに進んで取り組んでいる。【観察】	友達の良い動きを見付けたり、考えたことを友達に伝えている。【観察】	楽しくできる遊び方を選んでいる。【観察】 楽しかったこと、考えた遊び、友達のよい動きを振り返っている。 【観察・学習カード】
具体的な評価規準の一例			

8. 本時の学習 (本時 1/3)

(1) 本時の目標

- ◎ 鉄棒を使った運動遊びの行い方を知ることができる。 【知識及び技能】
- ・ 遊び方や遊び方に適した場を選んで、運動遊びに取り組むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- ・ 鉄棒の安全に気を付け、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく運動をしようとする事ができる。 【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開

	学習活動	指導者の働きかけ	評価	準備物
は じ め	1. 単元の内容や進め方を知り、本時のめあてを知る。	○単元全体の簡単な見通しと、本時のめあてをもてるようにする。		めあてを書いたミニボード
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> いろいろな鉄棒の遊び方を知って、遊んでみよう。 </div>			
	2. 準備運動をする。 ・準備運動 ・固定遊具遊び (肋木、ジャングルジム)	○一つ一つの部位を意識できるよう、言葉かけをしたり、握る動きを取り入れたりする。 ○握ったり、支持したりする基礎的な動きを行い、友達と楽しく遊びながら、鉄棒遊びに向けて体を慣らすことができるようにする。	・準備運動に取り組んでいる。 【態度】 ・安全に留意して楽しく遊んでいる。 【態度】	

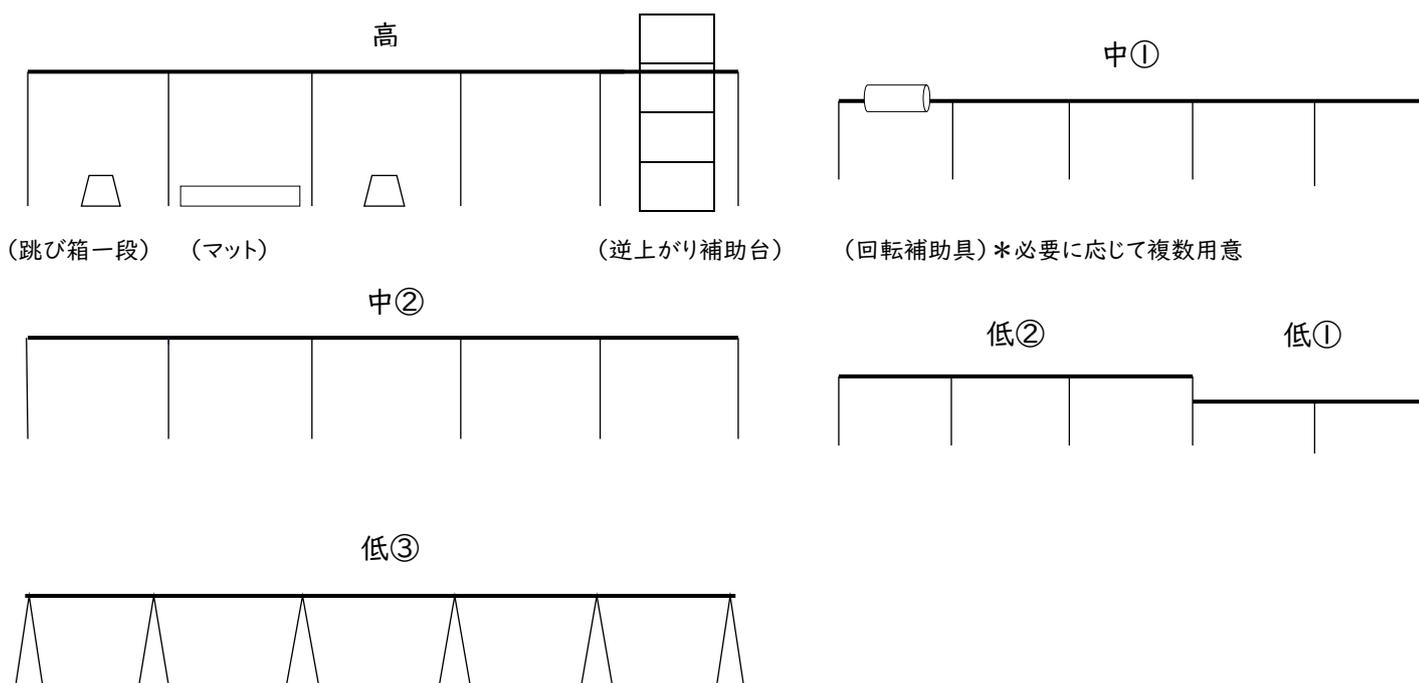


<p>な か</p>	<p>3.鉄棒の使い方や運動遊びの行い方を知る。 ・握り方(順手・逆手) ・安全 ・順番 ・きまり ・協力</p> <p>4.鉄棒を使って、いろいろな運動遊びをする。 ○できる遊び方を紹介し合い、見合う。 ・跳び上がる ・跳び下りる ・ぶら下がる →猿、豚の丸焼き、布団干し、洗濯物、こうもり ・揺れる ・支持する(手や腹、膝) →つばめ、ダンゴ虫、片膝かけ ・易しい回転をする →前回り、足抜き後ろ回り、足抜き前回り、地球回り ○できる遊び方やしてみたい遊び方をする。 ○新たな遊び方を見合う。 ・どこが新しいのか、どこに工夫があるのかを考える。 ○できそうな遊び方やしてみたい遊び方をする。</p>	<p>○安全に運動するために、鉄棒の握り方は、親指と人差し指で輪をつくるようにすることを指導する。 ○高い鉄棒の下にはマットを敷いてあることや跳び箱が置いてあることを確認する。 ○一つの鉄棒には二人まで、逆上がり補助台は順番を守って、使いたい鉄棒はゆずり合って使うことを確認する。</p> <p>○児童が動きで紹介するようにし、全体で見合う。 ○友達の遊び方を見ながら、まだ、紹介されていないものがあると気づきを促すようにする。 ○使う体の部位やその動きを指導者が言語化して補い、見る児童に動きのイメージがもてるようにする。 ○紹介した児童を称賛し、次の遊び方に向かう励みを与えたり、見る児童には、してみたい遊び方を見付けたりすることができるようにする。 ○児童の動きを観察し、助言をしたり、補助をしたりして意欲が続くようにする。 ○新たな遊び方をしている児童を見付け、全体で見合う場を再度つくり、楽しさや動きの高まりにつなげられるようにする。 ○観察、助言、補助を続ける。</p>	<p>・鉄棒の使い方を理解している。 【知識・技能】</p> <p>・鉄棒の運動遊びの行い方を理解している。 【知識・技能】</p> <p>・遊び方や遊び方に適した場を選んで運動遊びに取り組んでいる。 【思考・判断・表現】</p>	<p>マット 跳び箱一段 (事前に準備)</p> <p>(回転補助具)</p>
----------------	--	---	--	---

ま と め	<p>5. 学習の振り返りをする。</p> <p>6. 整理運動をする。</p>	<p>○本時の学習で、楽しかったことやうれしかったこと、分かったことや気付いたこと、できるようになったこと、次にしてみたいこと等を発表するようにする。</p> <p>○一つ一つの体の部位を意識できるように、言葉かけをする。</p>		<p>めあてを書いたミニボード</p>
-------------	--	---	--	---------------------

9. 学習の場

*低中高は鉄棒の高さ(数字は小さい程低い)



.....

待機線

てつぼうあそび がく 学しゅう かあど カード

1年 | くみ

名まえ

★くふうして あそんだ あそびの ○に いろを ぬりましょう。

ぶら <small>さ</small> 下がる・ゆれる	バランス (とまる)	とび <small>あ</small> 上がり・とび <small>お</small> 下り	まわる
 ぶたのまるやき	 つばめ	 とびあがり	 まえまわり
 さる	 じてんしゃこぎ	 とび下り	 足ぬきまえまわり
 ふとんほし	 よこわたり	 まえふりとび下り	 足ぬきうしろまわり
 せんたくもの	 だんご虫	 うしろふりとび下り	 ちきゅうまわり
 こうもり	 だんご虫きょうそう	 こうもり下り	
 かたひざかけふり	 つばめじゃんけん		

★がく学しゅうを ふりかえりましょう。(○にいろをぬりましょう。)

たのしく うんどうが できましたか。	よくできた 	できた 	もうすこし
なかよく うんどうが できましたか。	よくできた 	できた 	もうすこし

11. 実践を終えて(成果と課題)

(1) 児童が主体的に運動に取り組むための手立ての工夫

① 児童の実態に適した教材の設定と単元を見通した指導計画の作成

・ 事前に行った意識調査から、「保育園の鉄棒より高い鉄棒があって、届かない」、「保育園には台があって、高い鉄棒にも届いた」ことを理由に、鉄棒遊びをあまり楽しみではないと捉える児童がいることが分かった。そこで、足場となる跳び箱やセーフティマットを準備し、様々な高さの鉄棒で安全に楽しく遊べるようにした。また、「できるようになった技をみんなに見せたい」から、鉄棒遊びを楽しみに思う児童が多くいることも分かった。こつこつと練習を積み、習得した技を見てもらい、そこで称賛を得れば、より自己肯定感を高め、自信を深められる。見る側にとっては、「よし、自分も」と意欲を喚起できる。これらの実態に応じ、児童の不安を払拭した場を作り、鉄棒遊びに対して「やってみよう」と思わせる単元学習の組み立てを考え、実践することができた。

・ 2年間にわたる鉄棒遊びのはじめの段階であることから、鉄棒の遊び方を大きく四つに分類してカードに示した。(10. 資料参照) こうすることで、基本の動きができれば、次の動きへと向かいやすくした。技の名前を知らながら、関連した動きを見つけ、次々と挑戦する姿が見られた。個人に持たせたカードには、できた技に色を塗るようにし、次に取り組みたい技を選びやすくした。掲示物として拡大したカードは、鉄棒近くの登り棒に括り付け、運動中いつでも確認できるようにした。こうした学習カードの活用が、「今できる技」、「これからがんばる技」を明確にし、個人の目標設定に役立てられた。また、指導者がその個人カードを見取ることで、成果やつまずきを把握し、実態に即した支援・指導を行うことができた。こういった学習カードの活用が、児童の主体性につながる一つとなった。

② 体を動かす楽しさが実感できる場の設定

・ 前述した高い鉄棒には、踏み台となる物を準備したり、怖さを和らげ、安全を確保するセーフティマットを置いたりして場づくりをした。また、本時は第1時であることから、安全指導の場も意識して設けた。安全指導が、けがの防止や運動を楽しむための基礎となることから、丁寧に指導するようにした。また、主活動の場を「やってみよう遊び方をする」場と、「できた遊び方に工夫を加える」場の2段階に分けて活動した。合間に遊び方を見合うことで、友達の様子がヒントとなり、自分でも試す児童の姿が見られた。多くの児童が遊び方を紹介したいと手を挙げ、これから伸びようとする児童の背中を押す雰囲気が生まれた。技のできる児童、これから伸びようとする児童の双方が、楽しく鉄棒遊びに取り組むことができた。



(2) 教え合い、高め合う児童同士の協働学習の工夫

① ペアやグループ活動・全体活動による学習形態の工夫

・ この時期の児童の発達段階から、主として全体活動による協働学習を行った。鉄棒の遊び方を紹介する児童、それを見て動き方を知る児童と、それぞれの力量に合わせた学習の仕方、友達との関わり方ができるようにした。この活動が児童間の学び合いにつながった。「自分もやってみよう」、「自分も(工

夫を)考えてみたい」といった前向きな気持ちを引き出した。紹介した児童にとっては、遊び方の広まりが誇らしく、友達に動き方を教えることを楽しんだ。

②対話的な活動を通しての学び合い

・動きを言語化するのは、まだ難しい時期であることから、互いの遊び方を見合うことで、気づきを促すようにした。指導者は、児童の動きを言語化したり、体の使い方などの見るポイントを示したりして、動きと言葉をつなげる指導を行った。学習の時数を重ねるごとに、教え合いや誘い合いの姿が見られ、教える側は、“やってみせる”ことをし、学び取る側は、“よく見てやってみる”ことをし、多くの言葉を交わさずとも、体を雄弁に用いて、楽しく和気あいあいと学び合うことができた。



(3)「教えること」と「気付かせること」を明確にした指導者の働きかけの工夫

①運動領域に即した適切な指導

・第1時である本時で、単元全体のめあてを知らせ、1年生なりの見通しがもてるようにした。また、単元の入り口であることから、鉄棒の握り方や順番、きまりなども指導し、安全で楽しく運動遊びができる



ようにした。第2時では、あらかじめ準備していた学習カードを、児童が第1時で紹介した技をまとめたものとして児童に提示した。技を紹介した児童は自分の技を探し、見付けると喜んでいた。自分が役に立った感じを与えられ、気持ちも上向いた。ここで改めて、技の名前を知ったり、挿絵から動きを確認したりでき、取り組みたい技がより明確になった。技の少ない児童にとっては、できそうな

技を見付けることや、できる技を生かして遊べそうなものを選ぶことができた。鉄棒遊びは基本的に個人の運動であることから、個々のめあての設定が重要になってくる。意欲の持続も運動技能を高めたり、運動を楽しんだりすることに欠かせない。技が少なくても、友達と一緒に“揃えて”したり、“連続して”したりすることで活動の幅が広がった。できる技に工夫を加えれば、個人技である鉄棒も友達と一緒に楽しむことができた。友達と一緒に苦手な鉄棒も楽しいと感じ、最後まで意欲的に活動できた。

②児童の気づきを生かした主体的な学び

・第3時では、より工夫を加えて遊ぶようにした。友達と“競争”して、ぶら下がりの持久比べや、跳び下りの距離比べをしたりするなど、前述の“揃える(シンクロ)”や“連続”技も、続けて友達を誘い合い、楽しんだ。紅白玉の大きさのボールを提示すると、早速、かごに入れる遊びを始めていた。“こうもり”の姿勢から投げるのが人気で、ボールを投げる役、ボールを渡す役、ボールを拾う役と自分たちで交代しながら遊んでいた。



何球も投げたくて、鉄棒に持続してぶら下がっていた児童が多く、遊びを通して技能が高まった。ここには、「できる」、「できない」を感じさせない、仕切りを作らない運動の楽しさが見られた。友達と遊びの仕方や人数、鉄棒の高さなどの工夫を考え、それを試すことが児童の主体性を育んだ。指導者からの一方向の教えや指示を“受ける”ことよりも、主体的な活動となり、運動する意欲や技能の習得、協力的な態度の育成において有効だった。また、「できそうだ」、「でき

てきた」うれしさも、友達と分かち合えることができ、より喜びが大きくなった。技のできる児童だけが楽しむのではない、みんなで楽しめる場をつくることのできた。



(4) 今後の課題

- 準備運動を短くして、その分を、短時間で運動量を確保できる鬼遊びなどに回し、運動の幅を広げるのも一考であった。
- 器械運動系は、「個に始まって個に戻る」と指導を受けた。鉄棒嫌いをつくらないために、低学年で「鉄棒は面白い」と思わせることが大切である。
- 遊びが深まると、技も深まるので、指導者が指導内容を熟知し、鉄棒遊びを分析・整理して授業に臨むことが重要になってくる。
- 実践後、アンケートを行った結果は以下の通りである。



① てつぼうあそびは、たのしかったですか。

はい	20	あんまり	0
----	----	------	---

② ともだちと てつぼうあそびをしたことは、たのしかったですか。

はい	20	あんまり	0
----	----	------	---

③ ともだちのあそびかたをみたり、やりかたをはなしたりすることはべんきょうになりましたか。

はい	20	あんまり	0
----	----	------	---

学習後、休み時間も友達を誘って鉄棒に向かう児童の姿が見られた。手のマメを見せて、練習に励む様子を教えてくれたり、「できるようになった!」と興奮気味に報告してくれたりした。鉄棒の、いつでもそこにあるよさを感じるとともに、鉄棒遊びに関心が向いていることに学習の成果を感じる。一部の保護者からは、「公園でよく鉄棒の練習をしています」と聞く。練習をすればできるようになるといった手ごたえや、一緒に遊ぶ友達がいること、また、公園で親子で取り組めることを考えると、鉄棒は、身近な運動であり、関わりの場とも言える。友達や家の方が、がんばる自分を認めてくれることも、目標に向かって挑み続ける力となっている。今後も、体育科や学校生活全般において、児童ができるようになるまでの過程を楽しみ、友達と力を合わせて活動する場をつくりたい。そうして、達成感を得て、自信を深められるように、児童の自ら伸びる力を後押ししていきたい。

